

開催地名	奈良県 天理市
開催日時	令和6年9月28日(土)10:00~12:00
開催場所	天理市文化センター
語り部	臼井 久(山梨県都留市)
参加者	自主防災組織・地域住民 120名
開催経緯	市内の自主防災組織はほとんどの町では結成されているが、奈良県における災害が少ないこともあり、多数の団体が、活動内容において苦慮している現状である。共助・自助の取組として、災害時に活用できるノウハウ・教訓等を聞きたい。
内容	■ はじめに 講演者の臼井久氏は、山梨県都留市の自主防災組織に所属し、地域の防災計画推進に尽力してきた。都留市の自主防災会では、地域住民の防災意識を高めるために、実践的な防災訓練の実施や防災マップの作成など、多岐にわたる取り組みを行っている。今回の講演では、地域に根ざした防災活動の重要性について語られ、「地域の防災力を強化し、一人の犠牲者も出さないこと」を目標に掲げた。 臼井氏は、防災は特定の人だけが担うものではなく、地域全体で取り組むべきものであると強調し、災害発生時に個人や家族、地域がどのように連携し、迅速に対応するべきかについて詳しく説明した。 ■ 過去の災害経験と教訓 臼井氏は、都留市で発生した過去の災害や、他地域での大規模災害から得た教訓について詳しく語った。 平成19年には台風による大雨が発生し、市内を流れる川が氾濫した。この際、地域住民が迅速に避難を行ったため、大きな人的被害は避けられたものの、住宅の浸水や道路の損壊などの被害が相次ぎ、復旧には長い時間を要した。この経験から、避難行動の迅速な判断と、事前の備えが重要であることが認識された。 2011年の東日本大震災では、都留市自体の被害は比較的少なかったものの、強い揺れが観測された。これを契機に、避難所の開設や防災体制の見直しが進められ、地域の防災意識向上のきっかけとなった。 令和元年の台風19号(東日本台風)では、河川の氾濫により広範囲で冠水被害が発生し、道路の寸断によって救助活動が難航した。これにより、いざというときの避難ルートの確保や、孤立地域への支援策の必要性が明確になった。 これらの経験を通じて、臼井氏は「災害はいつか必ず発生するものとして備えることが重要であり、日頃からの準備が命を守る」と強調した。 ■ その後の取り組み 過去の災害を教訓に、臼井氏は地域の防災力を高めるため、さまざまな取り組みを進めた。 まず、防災マップの作成に着手し、住民が主体となる「まち歩き」を実施した。地域住民が実際に地域を歩きながら危険箇所を確認し、土砂災害警戒区域や避難ルートを明記したマップを作成することで、誰でも分かりやすい防災情報を提供できるようになった。これにより、災害時に適切な行動をとるための指針が整備された。 また、従来バラバラに活動していた3つの自主防災会を統合し、地域全体で防災活動を推進する体制を構築した。防災計画の見直しを行い、地震や水害といった異なる災害ごとに適切な避難行動が取れるよう、時間軸に沿った避難行動マニュアルを策定した。 避難所の環境改善にも取り組み、従来の体育館に加え、教室などを活用した避難スペースを確保し、プライバシーへの配慮を強化した。また、物資の配置を工夫することで、避難者がより快適に過ごせる環境を整えた。 さらに、情報共有の強化として、LINE公式アカウント「ワイヤー」を活用し、地域住民にリアルタイムで防災情報を提供する仕組みを導入した。気象データを基に降水量が一定の基準を超えた際には、自動的に早期避難を呼びかけるシステムも構築され、住民の迅速な避難行動を促す体制が整えられた。

■ まとめ

臼井氏は、防災活動は一時的な取り組みではなく、継続的に実施することが重要であると述べ、今後の防災対策として以下の点を強調した。

自主防災会の役割を明確化し、避難所の運営や物資管理の体制を確立することで、災害時の混乱を最小限に抑えることができる。また、避難行動については、「まだ大丈夫」ではなく、「今すぐ避難」を意識し、家族単位で避難計画を作成し、実際に避難訓練を行うことが重要である。

さらに、地域全体の防災力を強化するため、住民同士が助け合う「共助」の意識を育み、高齢者や障がい者の避難支援を事前に計画することが求められる。防災情報の活用についても、ハザードマップや気象情報を随時確認し、早めの行動を心掛けることが必要である。また、防災アプリやSNSを活用し、正確な情報を取得することで、混乱を避けることができる。

最後に、臼井氏は「防災は日々の積み重ねが大切であり、一人ひとりの意識が地域全体の防災力を高める」と述べ、今後も継続的に防災活動を推進することの重要性を強調した。



開催地より

講演を通じて自主防災組織の役割を明確にすること、「共助」の意識や具体的な防災情報対策が重要であることを知る事が出来た。本日の講演を今後活かしていきたい。